（社）北海道中小企業家同友会　　南しれとこ支部

地域経済セミナー

地域が持つ「強み」と「弱み」
－中標津町の地域経済の特徴

釧路公立大学　下山　朗

2010年7月26日

報告構成

- 地域経済を分析するためには？
- 道東地域の経済概要
- 地域経済における中小企業
- 釧路地域における発展可能性

地域経済を分析するためには？

- 正しい情報を入手する
  - ○ 情報を整理する必要性

－－－

地域経済を分析するためには？

- 分析方法について
  - 地域間の比較分析（クロスセクション分析）

    釧路地域と他の地域を比較する

    → 普遍、固有を検証する
  - 異時点間の比較分析（タイムシリーズ分析）

    釧路地域を年代別に整理する

    → 短期、長期等を検証する
  - 政策変更との比較　　・・・・・　等

地域経済を分析するためには？

- 本報告の構成
  - ○ 中標津町の現状道内、全国と比較する

    → 固有の問題か普遍的な問題かを浮き彫りにする
  - ○ 時系列データを用いる → トレンドを分析する
  - ○ 地域固有の問題として、中標津町の中小企業の直面する状況を取り上げる

    → 今後の地域振興政策の基礎情報を提供
  - ○ 問題点に対処するために、各主体の取り得るべき政策を提言

中標津の経済概要

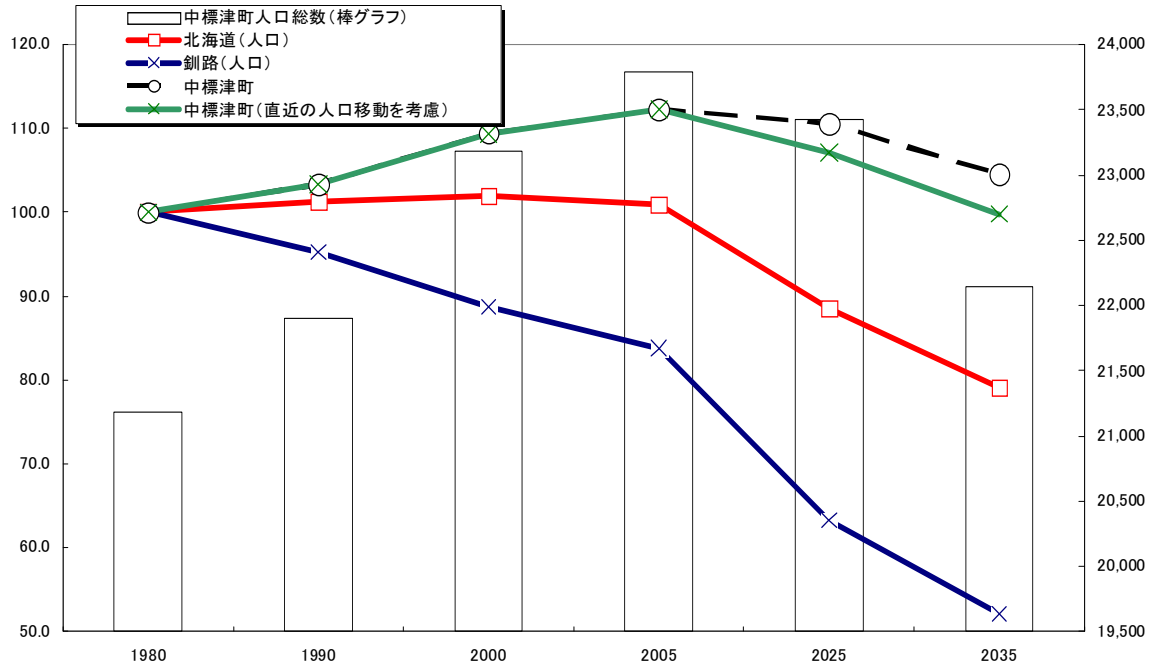
1. 人口
2. 産業構造ー生産規模、立地係数等
3. 経済力ー生産高、主要産業
4. 景気動向
5. 所得格差等

まとめ

地域経済分析の複合的視点の重要性

中標津の経済概要ー1. 人口

図1　人口と人口変化率(1980年=100)（将来推計含む）



道全体と比べて、人口減少は緩やか。
将来推計人口は、直近のデータを見ると漸減傾向

出所:『国勢調査』、『将来推計人口』各年版より作成。

中標津の経済概要－2. 産業構造－生産規模、立地係数等

表2　立地係数でみた産業構造と地域特性(2005年)

	第１次産業				第２次産業			
	総　数	農　業	林　業	漁　業	総　数	鉱　業	建設業	製造業
北海道	1.60	1.35	3.56	4.24	0.73	2.59	1.20	0.48
釧路市	0.51	0.26	2.71	3.21	0.78	14.93	1.19	0.54
中標津町	2.46	2.56	5.60	0.65	0.79	4.49	1.64	0.35

	第３次産業							
	総　数	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸通信	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	サービス業	公務（他に分類されないもの）
北海道	1.06	1.11	0.96	1.03	0.88	0.84	1.07	1.57
釧路市	1.11	1.34	1.10	1.13	1.15	0.65	1.08	1.37
中標津町	1.00	1.24	0.62	1.48	0.70	0.20	0.90	0.95

※　立地係数　＝　地域の産業構成比／全国の産業構成比（産業別就業者数で算出）
　　立地係数　＞　１　の場合、全国と比べて　構成比が大きい

出所:『国勢調査』より作成

全国と比較して、第1次産業に偏重した地域。
第1次産業では、農業、林業、第2次では、建設業、第3次では卸売小売等が高い。
製造業の内訳が分からないが、道内他都市と比べて低いところを見ると、
食料品加工業（付加価値をつける）部門が弱い可能性？

中標津の経済概要－3. 経済力－生産高、主要産業

表3　地域経済の特徴－経済規模:中標津町

	第1次産業指標	第2次産業（製造業）指標		第3次産業指標	経済情勢指標	
	農業産出額	製造品出荷額等（工業統計）:総額	製造品出荷額等（工業統計）:食料品	年間商品販売額（商業統計）:卸売:総額	新設住宅着工戸数:年度:計	地価:全用途:平均地価
	万円	万円	万円	万円	戸	百円
1991				8,878,000	304	
1992	1,328,000	1,341,930	733,695		306	
1993	1,344,000	1,371,218	762,695		281	
1994	1,371,000	1,192,198	606,917	4,119,100	384	
1995	1,326,000	1,119,286	578,916		413	
1996	1,348,000	1,189,663	591,753		326	
1997	1,364,000	1,244,723	692,608	9,147,400	265	227
1998	1,428,000	1,227,206	719,090		279	229
1999	1,450,000	1,237,131	698,154	4,642,700	291	229
2000	1,520,000	1,127,428	582,566		330	228
2001	1,556,000	1,067,413	553,334		255	232
2002	1,632,000	935,337	473,373	5,471,100	199	228
2003	1,671,000	940,488	448,018		232	220
2004	1,749,000	978,382	509,259	5,434,300	147	211
2005	1,787,000	942,993			191	204

1991年比	135	70	69	61	63	90
	農業産出額	製造品出荷額等（工業統計）:総額	製造品出荷額等（工業統計）:食料品	年間商品販売額（商業統計）:卸売:総額	新設住宅着工戸数:年度:計	地価:全用途:平均地価

中標津の経済概要－3. 経済力－生産高、主要産業

①第1次産業・・・　堅調な伸びを示している

②第2次産業・・・　トータルの製造品出荷額も、食料品製造業の出荷額も低減傾向

→　第1次産品は伸びているのに、加工部門付加価値には結びついていない可能性

③第3次産業・・・　地域経済の縮小にしたがい減少

（人口は増加しているにもかかわらず減少しているのは「？？？」）

④その他指標・・・　新設住宅着工件数等は減少傾向

→　景気動向が悪い状態が続く

地価は、減少しているが<u>他地域と比べてまし</u>

中標津の経済概要－3. 経済力－生産高、主要産業

表4　耕地規模別　農家数

	総農家数	1ha未満	1～10ha	10～20ha	20～30ha	30～50ha	50ha～
1980年	572	3 (1%)	20 (3%)	31 (5%)	117 (20%)	398 (70%)	
1985年	511	1 (0%)	11 (2%)	24 (5%)	59 (12%)	416 (81%)	
1990年	481	0 (0%)	8 (2%)	14 (3%)	34 (7%)	251 (52%)	177 (37%)
1995年	440	1 (0%)	6 (1%)	14 (3%)	24 (5%)	184 (42%)	215 (49%)
2000年	390	1 (0%)	6 (2%)	5 (1%)	6 (2%)	120 (31%)	251 (64%)
2005年	370	2 (1%)	10 (3%)	3 (1%)	5 (1%)	100 (27%)	250 (68%)

表5　生乳生産量と農業粗生産額

単位：百万円

	生乳		畜産				耕種		
	生産量(t)	額	肉用牛	乳用牛	その他	小計	いも類	その他	計
2001年	162,801	12,110	190	14,650	40	14,880	340	340	680
2002年	171,891	12,720	200	15,390	50	15,640	360	320	680
2003年	172,946	12,800	370	15,650	40	16,060	370	290	660
2004年	175,206	12,970	520	16,040	50	16,610	420	460	880
2005年	176,795	12,910	700	16,330	50	17,080	410	380	790
2006年	174,905	12,420	760	15,650	70	16,480	420	490	910

中標津の経済概要－3. 経済力－生産高、主要産業

① 農作地については、若干規模の大きな農家が増えてきている（規模の小さな農家は廃業？）

② 生乳については、単価の変動等の影響もあるもののある程度安定的（2006年以降の価格変更は考慮していないこともあるため）

③ 畜産、耕種についても、ほぼ安定的である

→ 出所はすべて、農林センサス等であるが、より詳細な分析（担い手の年齢、各企業体、個人の売上等）が必要

中標津の経済概要－4. 所得格差等

表6 所得格差等

		法人申告所得：法人数	法人所得総額（千円）	1社平均法人所得（千円）	（順位）	一人あたり課税所得（千円）	（順位）	◆高額納税者：人数	（順位）	人口（住基）	（順位）
根室管内	根室市	13社	2,049,846	157,680	(22)	2,926	(95)	11	(13)	31,803	(23)
	別海町	5社	319,443	63,889	(116)	3,212	(20)	5	(29)	16,786	(46)
	中標津町	10社	755,662	75,566	(99)	3,036	(57)	10	(17)	23,774	(35)
	標津町	2社	87,992	43,996	(135)	3,210	(21)	3	(41)	6,137	(101)
	羅臼町	13社	718,774	55,290	(126)	3,225	(18)	0	(107)	6,650	(91)
人口類似地域	遠軽町	9社	680,518	75,613	(98)	2,961	(84)	2	(49)	23,939	(34)
	士別市	7社	607,703	86,815	(83)	2,930	(94)	2	(49)	24,036	(33)
	美幌町	8社	706,216	88,277	(81)	2,907	(103)	1	(62)	22,942	(36)
その他	札幌市	1136社	337,400,054	297,007	(4)	3,272	(15)	957	(1)	1,856,442	(1)
	釧路市	61社	7,182,286	117,742	(46)	2,944	(89)	54	(5)	194,326	(4)

※ 順位は、全道180市町村の2005年のデータを用いている

※ 東京商エリサーチ(03-3574-2211)、帝国データバンクのデータ。
当該年の1～12月に決算期の到来した、法人申告所得が4000万円以上の法人分を集計したもの。

中標津の経済概要－4. 所得格差等

①根室管内では、法人所得はある程度の規模である
（2005年段階ですら）

②1社平均法人所得は、さほど大きくなく、規模の大きな会社はまだ育っていない　→　中小企業が中心である？

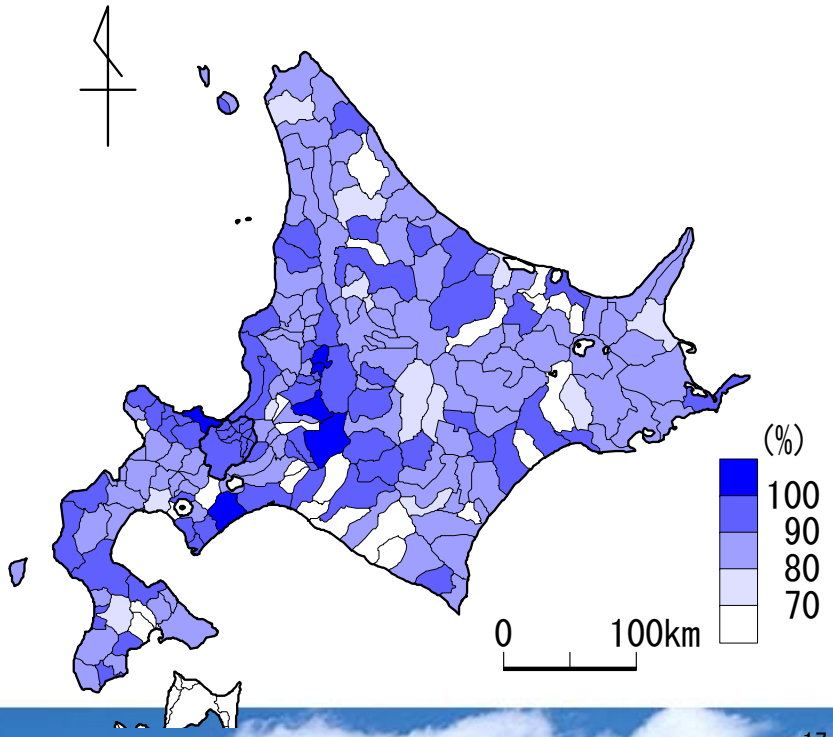
③一人あたり課税所得　は低い傾向（地方部の方が高く出る傾向がある）

④高額納税者は道内でも有数　→　高い所得の一部と低い所得の多数が存在？

－－－

北海道の財政の実態

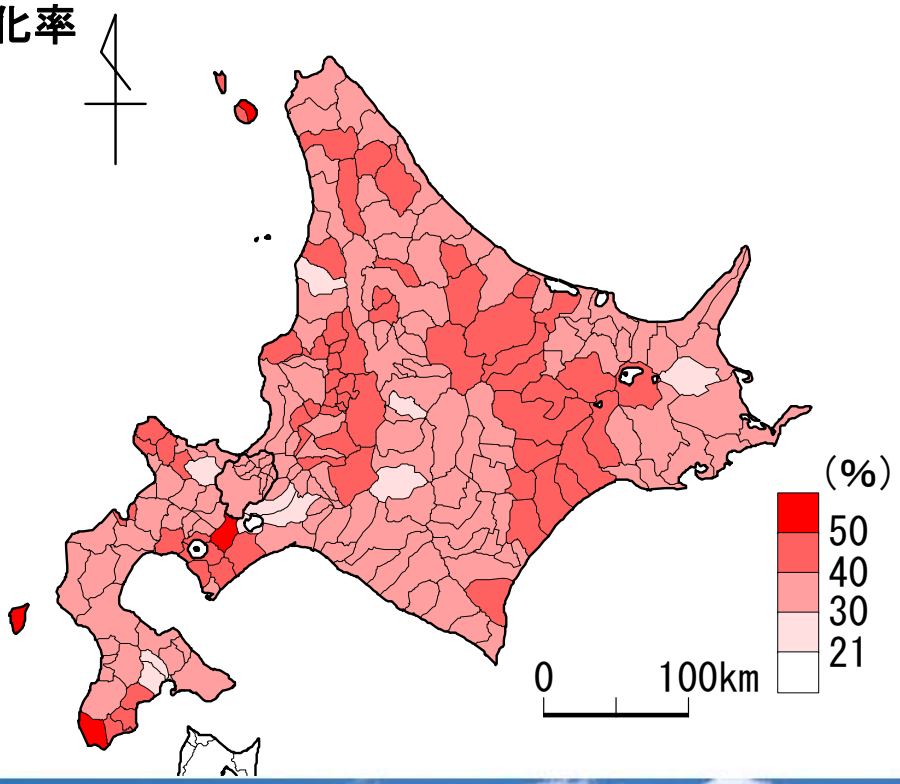
- 市町村財政（経常収支比率）



出所：『市町村別決算状況調』

北海道の財政の実態

- 2030年　高齢化率



出所：『日本の市区町村別将来推計人口】－平成15(2003)年12月推計－

地域経済における中小企業

－可能性－

大都会と比べて、地方圏では比較的規模の小さい会社ががんばっている傾向にあるのではないか？

－検証－

北海道は全国平均よりも割合が高い

中標津もかなりの割合である

＝中小企業の重要性

表7　中小企業のシェア

		事業所数シェア	従業員数シェア
根室管内	根室市	95.8%	80.6%
	別海町	96.4%	82.9%
	中標津町	96.2%	81.3%
	標津町	95.0%	86.9%
	羅臼町	97.9%	81.0%
人口類似地域	遠軽町	95.6%	82.1%
	士別市	94.6%	81.4%
	美幌町	94.9%	82.9%
その他	札幌市	93.8%	87.9%
	釧路市	95.5%	83.2%
全国		95.1%	53.8%

地域経済における中小企業

- 一方、地域に特化して中小企業分析はデータ制約上困難である。

（紹介）

全国ベース、あるいは地域ベースの分析を紹介

1）付加価値額から見た中小企業比率

2）従業員規模別倒産状況（データ無し）

3）財務指標の比較

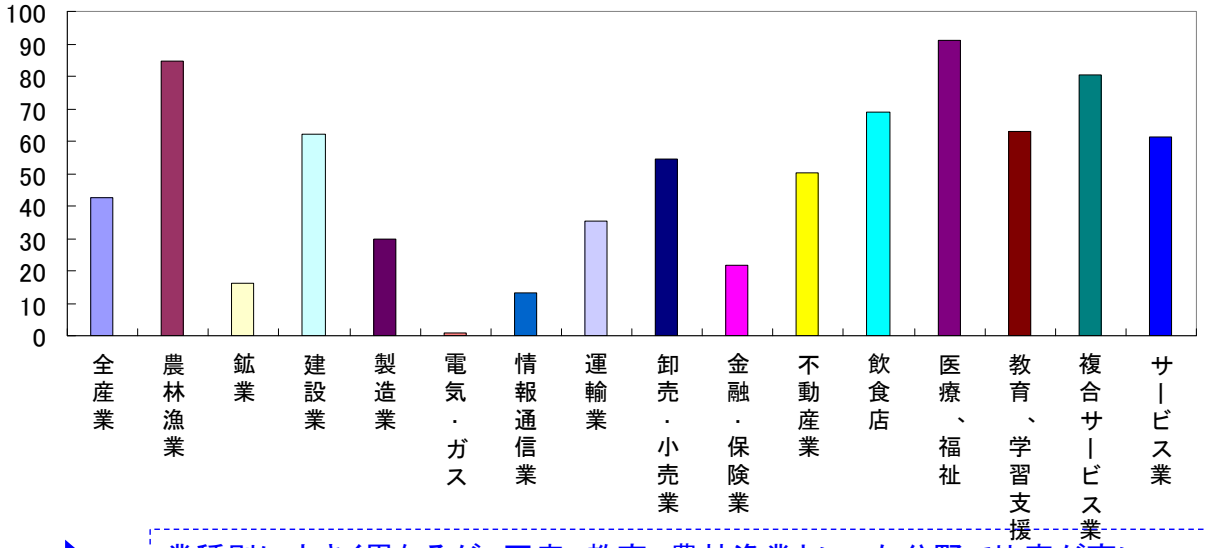
4）中小企業と大企業の利益水準の分布

5）地域別中小企業の利益率

6）創業年代別利益水準の分布

1） 付加価値額から見た中小企業比率

付加価値の業種別中小企業比率（推計値）



業種別に大きく異なるが、医療、教育、農林漁業といった分野で比率が高い。

全産業で40%程度。

4） 中小企業と大企業の利益水準の分布

		赤字	0～1千万円	1千万～1億	1億～5億	5億～
関東	中小企業	16.6	56.7	21.5	4.4	1.0
	大企業	13.0	3.4	16.1	26.1	41.4
	大田区	16.8	543.0	23.7	4.3	1.0

大企業と比べて、低収益の企業の割合が高い

5） 地域別中小企業の利益率

	総資本経常利益率	売上高経常利益率	総資本回転率
関東	3.6	2.7	1.4
中部	3.9	2.9	1.3
関西	3.3	2.9	1.2
東京都	4.1	3.1	1.3

地域別利益率は、東京が中心で最も高いが、関西等はやや低い傾向にある

6） 創業年代別利益水準の分布

関東地方

	全体比率	赤字	0～1千万円	1千万～1億	1億～5億	5億～
戦前	9.9%	17.3%	49.6%	24.3%	6.9%	1.9%
1945～59	16.2%	17.7%	52.5%	22.5%	5.9%	1.4%
1960～69	18.2%	17.0%	58.2%	20.1%	4.0%	0.7%
1970～79	20.6%	15.4%	59.2%	21.0%	3.6%	0.8%
1980～89	18.4%	13.8%	60.2%	21.8%	3.6%	0.6%
1990～99	12.4%	15.8%	56.5%	21.7%	4.6%	1.5%
2000～	3.9%	21.7%	49.5%	21.3%	5.2%	2.3%

創業年代ごとの利益水準の分布は、特に直近では赤字が増えているが、全体的には大きな傾向は見られない

中小企業の強みと弱み

(株)帝国データバンクの統計資料を用いて、企業規模と売上、利益、産業内ランクとの関係を分析。さらに、創業年、経営者の年齢といった経営属性データとの相関を分析。

＝ ミクロの精緻なデータを用いた統計分析。

使用データ

収録データ	産業分類、資本金、従業員数、創業年、事業所数、売上（3カ年分）、利益（3カ年分）、全国ランキング、全道ランキング、代表者年齢、役職種類、代表者出身県、出身校、取引先
対象企業数	2，725社（釧根地域企業の約7割程度）

中標津における中小企業の特徴

従業員区分	頻度	累積 %
～5人	101	47.87%
6人～10人	50	71.56%
11人～30人	45	92.89%
31人～50人	9	97.16%
51人～100人	3	98.58%
100人～	3	100.00%

資本金区分	頻度	累積 %
1千万以下	150	71.09%
1千万超～3千万	41	90.52%
3千万超～5千万	16	98.10%
5千万超～1億	2	99.05%
1億～3億	1	99.53%
3億～	1	100.00%

○　企業体の中心は、5名未満の小規模企業である。

○　一方、100人強の企業も3社あり、一部の企業とその他の企業間では、格差が生じる
　＝　産業振興策でもどこをターゲットに絞るかが変わってくる

中標津における中小企業の特徴

利益から見る中小企業の特徴

	総企業数	最新期利潤がプラスの企業数	シェア
農業	9	3	33%
林業、狩猟業	2	2	100%
鉱業	1	1	100%
建設業	64	44	69%
製造業	17	6	35%
卸売・小売業・飲食店	67	24	36%
不動産業	2	0	0%
運輸・通信業	11	5	45%
サービス業	38	17	45%
全産業	211	102	48%

○　全産業と比較して、建設業が比較的高い。

○　運輸通信、サービスといった第3次産業は平均程度

○　主要業種であった農業はあまり利潤がよくない

○　製造業、卸売・小売業も同様である

中標津における中小企業の特徴

ランクから見る中小企業の特徴

業界内でのランキングデータが入手可能。

例えば、「看板・標識製造業」のA社は、

全国ランク1，548位（2，110社中）、道内ランク110位（173社中）という

データが入手可能。

↓

産業大分類ごとに、業界内で上位何%に入っているかを求め集計

A社は、「製造業」（大分類）に属し、

全国ランク上位70%~90%（73%）、道内ランク51%~70%(64%)

全国ランクと道内ランクを求め、どの産業が強いのかをみてみる。

中標津における中小企業の特徴

記述統計

	企業数	全国社数	全国ランキング	都道府県別社数	都道府県別ランキング	全国ランク	道内ランク
農業	9社	273社	142社	81社	49社	47%	51%
林業、狩猟業	2社	205社	49社	42社	15社	24%	34%
鉱業	1社	969社	826社	120社	104社	85%	87%
建設業	64社	29,978社	7,944社	1,584社	472社	26%	27%
製造業	17社	2,295社	1,008社	135社	56社	50%	50%
卸売・小売業・飲食店	67社	5,115社	1,863社	320社	105社	40%	38%
不動産業	2社	17,724社	3,237社	944社	122社	19%	13%
運輸・通信業	11社	15,572社	7,491社	1,041社	458社	51%	48%
サービス業	38社	8,544社	2,478社	594社	168社	37%	34%
全産業	211社	13,439社	3,960社	768社	239社	37%	36%

全産業で、平均37%と悪くない数値、しかしながら産業間でばらつき。

中標津における中小企業の特徴

全国ランクから見る

全国ランキング（上位から）

	10%	30%	50%	70%	90%	100%
農業	0 (0%)	3 (33%)	2 (22%)	2 (22%)	2 (22%)	0 (0%)
林業、狩猟業	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
鉱業	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)
建設業	14 (22%)	26 (41%)	15 (23%)	7 (11%)	2 (3%)	0 (0%)
製造業	2 (12%)	2 (12%)	2 (12%)	8 (47%)	3 (18%)	0 (0%)
卸売・小売業・飲食店	3 (4%)	23 (34%)	19 (28%)	15 (22%)	6 (9%)	1 (1%)
不動産業	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
運輸・通信業	1 (9%)	2 (18%)	2 (18%)	4 (36%)	2 (18%)	0 (0%)
サービス業	4 (11%)	13 (34%)	10 (26%)	7 (18%)	3 (8%)	1 (3%)
全産業	25 (12%)	72 (34%)	50 (24%)	43 (20%)	19 (9%)	2 (1%)

○　全国ランキングをみると

・
・
・

強いと思われる産業である、農業は意外に悪い。

建設業といった、比較的苦戦している産業のランクは強い

中標津における中小企業の特徴

道内ランクから見る

道内ランキング（上位から）

	10%	30%	50%	70%	90%	100%
農業	0 (0%)	3 (33%)	1 (11%)	3 (33%)	0 (0%)	2 (22%)
林業、狩猟業	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
鉱業	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)
建設業	12 (19%)	27 (42%)	17 (27%)	6 (9%)	0 (0%)	2 (3%)
製造業	2 (12%)	1 (6%)	5 (29%)	5 (29%)	0 (0%)	4 (24%)
卸売・小売業・飲食店	3 (4%)	25 (37%)	22 (33%)	10 (15%)	0 (0%)	7 (10%)
不動産業	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
運輸・通信業	1 (9%)	2 (18%)	3 (27%)	3 (27%)	0 (0%)	2 (18%)
サービス業	3 (8%)	16 (42%)	9 (24%)	6 (16%)	0 (0%)	4 (11%)
全産業	22 (10%)	75 (36%)	59 (28%)	33 (16%)	0 (0%)	22 (10%)

○　道内ランキングをみると

・
・
・

全国ランクと同様に、建設業、卸売・小売等は強い。サービスが道内ではそれなりに強い。製造業等は、強い企業と弱い企業に分類。

中標津における中小企業の特徴

創業年からみる地域中小企業の特徴－

中標津町

創業年	企業数	シェア	（参考）釧根全体
～1969	76	57.6%	61.0%
1970～79	33	25.0%	20.1%
1980～89	17	12.9%	11.0%
1990～99	6	4.5%	6.5%
2000～	0	0.0%	1.4%

○　比較的創業の古い（伝統のある？）企業が多い

○　2000年以降の新規創業が少ない

＝　企業の新陳代謝が進んでいない

新規創業が少ない理由

○　経営環境が悪い　　○　支援、補助金が使いづらい（少ない）

○　企業家精神を持った人材が少ない　　等々が考えられる

→　新規創業を進める支援が必要

Ⅱ　中小企業の強みと弱み

➢ 経営者の年齢からみる地域中小企業の特徴－

	会社数	シェア	従業員数	シェア
30歳未満	0	0.0%	0	0.0%
30歳代	2	0.9%	12	0.5%
40歳代	39	18.5%	622	24.3%
50歳代	66	31.3%	662	25.8%
60歳代	75	35.5%	875	34.1%
70歳代	11	5.2%	76	3.0%
その他	18	8.5%	317	12.4%

中標津	57.6
全国平均	57.8

経営者の年齢で見ると、

全国平均とほぼ同等であり、事業継承の問題は喫緊の課題である。

特に、釧路と比べて、経営者の年齢が高い企業に、多くの従業員がいる傾向がある　→　事業継承しなければ、廃業＝失業に？

廃業はどういう影響をもたらすか？

Ⅱ　中小企業の強みと弱み

➢ 創業年、経営者の年齢からみる地域中小企業の特徴－

廃業の影響を試算してみる

前提：全国と同程度の廃業率

（経営者の年齢が75歳に達すると40%程度が廃業を考えるとする）

	廃業企業数	廃業従業員数
2020年	12社	157人
2030年	42社	507人

影響①

直接的な影響　・・・失業の増加

影響②

間接的な影響　・・・財政の悪化

税収減

法人関連税

個人所得関連税

歳出増

生活保護等

社会保障費

まとめ

さまざまなデータを用いて分析をしてきたが・・・

○　社会全体が抱える問題点

→　先行事例（成功事例）に従った振興策

○　中標津固有の問題点

→　独自の振興策

ターゲット効率的に問題発見能力が必要。